

<30 items for tomorrow> 介護心得に想うこと・・・(2)

医療法人真正会 専務理事 武居和明

創設者の斉藤正男会長の著書『人に尽くす』にも「介護の心得」が記載されていて、文末には、「心得は直接介護に携わる職員のみならず、職員全体に対しても共通した心得であり、心構えなのです。平常心をもってこの心得を熟読し玩味して心の糧としてください。」とあります。「介護の心得」は、かすみケアグループの職員の大切なバイブルです。私も手帳と一緒にいつも携帯しております。

2. 名前は固有名詞で呼び、早く覚えましょう

高齢者の介護対象者を、おじいさん、おばあさんと呼ぶことは禁句です。対象者のなかには「私は、おじいさんでもおばあさんでもない」と反発、自負する人もいます。対象者には例外なく親から貰った姓名があるのです。したがって、固有名詞で呼ぶことは一人の社会人として、また一人の人格者として認めることになるのです。そして、名前を早く覚えて呼び掛けるとき、一層の親近感が生まれるものです。

生活していくことや全ての仕事においても、相手の名前を覚えることは、コミュニケーションをとる上でとても大切です。最初は警戒されても、会話の中でも名前をお呼びすることで、徐々に安心されて親近感を持って頂けるようになります。また自分の名前が呼ばれると、心が和み、気持ちも明るくなり、相手に親しみを覚える気が私にはします。

34年も前のことでありますが、新人の頃とはとにかく職員の氏名、生年月日、出身地に至るまで必死に覚えた記憶があります。でもその甲斐あって自分の仕事がスタッフの方々の協力を得ながらスムーズに進められたと私は思っています。名前を覚えることと、自分の名前を知っていただくことも併せて大事なことだと思います。

私も 56 年間使い続けている親から頂いた「名前」があります。和やかに明るい子に育つようにとの願いであったと聞いています。現在はその名の通り優しくぽっちゃりした体型に育てられています。

名前は生を享けてから「あるとき」まで一生大切にするもののひとつです。大切にされている名前なのですから思いを込めてお呼びしていきましょう。

それでは、No. 3 は 特別養護老人ホーム 真寿園 小野塚由美子施設長に語ってもらいましょう！

[MEMO] 「霞ヶ関南病院」は、霞ヶ関中央病院の南に位置することから 1987 年開設時の名称は「霞ヶ関中央南病院」でした。そして 1993 年に現在の名称に変更されています。